

第2回王子駅周辺まちづくりランドデザイン策定検討会
議事要旨

◇ 日時

平成28年7月25日（月）午前10時から

◇ 場所

北区第一庁舎 4階 第二委員会室

◇ 会議次第

1. 開会

2. 委員紹介

3. 議題

「王子駅周辺まちづくりランドデザイン策定」について

4. 閉会

◇ 出席委員

29名

会長 出口 敦

副会長 関澤 愛、久保田 尚

委員 前田 英寿、杉崎 和久、上野 雄一、中島 高志、奥山 宏二、東野 寛
牧野 和宏、野崎 誠貴、小林 毅久、井料 青海、三吉野 育人
米 彰、清塚 淳、新井 隆之、齋藤 邦彦、安藤 昇作、堀江 毅
越野 充博、齊藤 正美、尾花 秀雄、水越 乙彦、依田 園子、中澤 嘉明
浅川 謙治、横尾 政弘、荒田 博

◇ 議事内容

1. 開会

- 事務局より開会宣言。

2. 委員紹介

- 人事異動で新しく就任された委員4名の紹介。

3. 議題 「王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定」について

- 事務局より配布資料にもとづき説明を行った後、質疑応答。
- 質疑応答の内容は以下に示す通り。

(会長)

事務局からの説明に対して、まずは P4~P37についてご意見等あればお願いしたい。また、部会を担当された委員の先生から補足等あればお願いしたい。

(副会長)

連立方程式を解かなくてはいけないような、大変難しい課題を抱えているなという印象を改めて抱いた。その中でも、新区庁舎移転を軸としてシンプルに考えていくのがよいのではないか。その整備スケジュールに合わせて、まちの活性化を含めた駅前の空間、もしくは駅そのものの連結性を高めながら庁舎までの空間整備などの議論を進めていくのが一つのやり方かと思う。

(委員)

にぎわい・活性化検討部会の報告はページも少なく情報も少なくなっているが、にぎわい・活性化と防災という二つのテーマがあったので、いろいろな現状の数字とか行政計画がどうなっているかなど、現状を把握するのに結構時間を費やしたという経緯がある。広がりのある分野なのであと1回、2回でどうやって議論するのかなというのは、少し都市基盤・開発検討部会での論点を明示し、たたき台を出して議論しないと議論がまとまっていけないような気がしている。第1回にぎわい・活性化検討部会では、都市基盤・開発検討部会の方でどういうことが議論されているのか、庁舎がどういうふうになるかという状況で決まっているのかということを知った上でそれに対する提案をしたいという要望があった。また、新しく起業したい人が実はぽつぽつ王子には入ってきているといった情報提供が委員の方からあり、それが王子に新しく入ってくる人のきっかけになるかという手応えがあった部会であった。

(委員)

第1回都市基盤・開発検討部会では、ほぼ出席者全員が発言したのではというぐらい多くの様々な意見が出た。今回のまちづくりについては、空間的にも時間的にもある仕切りを設けないと論点がぼけてしまうと感じた。時間的な仕切りは先ほど副会長から意見があった通り、区庁舎移転を一つのキータイトムと捉え、それまでの計画とそれ以降広がる展開

の二つのフェーズに分けて考えられる。空間的な議論は、例えば新庁舎候補地と王子駅、あるいは王子駅直近の民間用地などのあり方をまずはしっかり検討して、そこで足りないものは次のフェーズに譲るといった仕切りを設けないと議論が拡散してしまうのではないかと感じた。委員の方々の意見を聞いて以上が次の第 2 回に向けた宿題と考えている。

(副会長)

第 1 回都市基盤・開発検討部会で一番印象に残ったのは、王子は 23 区内では荻窪に次ぐ第 2 位の端末バス利用者数を有しており、広範囲の居住エリアを后背地として抱える駅であるということ。これは交通の面からするとかなり重要なことであり、周辺の商業単位で、王子を端末としている割合がある一定を超えるような地図を作成し、后背圏の人口はこのぐらいだとおさえた上でこれからの王子の開発ボリュームを考えていくことが必要である。

(事務局)

非常に貴重な意見。資料は次の部会で示したいと思っている。

(委員)

今副会長からあった駅勢圏の話は私も大変重要だと思っている。複雑な課題を考えていく上で、まずベースのところの実態をちゃんと把握しておくというのが大事である。駅勢圏だけでなく、駅を降りてからどういう交通行動が行われているかなど、まずその現状を押さえ、課題を整理した上で、将来的にまちづくりをどうするかというような観点を加えた上で最終的にどういうまちにするかというのが出てくるかと思っている。将来の土地利用については、都市基盤を 1 回整備すると次の機会で改良するというのはすごく困難なことがあるので、区役所移転に限らず、ある程度しっかり将来を見据えた上で段階的に考えるべきである。

将来の土地利用、まちづくりのあり方を踏まえて、駅前広場の機能分担や東西の歩行者のつながり、あるいは、新たな車両動線の確保、既存の広場や道路の改良など、そういったものが決まってくるのではないか。

(委員)

まず今の后背地が非常に充実していることは、この地域で事業をやっていて非常に実感として感じている。例えば、パートや中途採用を募集すると足立区新田などから結構応募がある。このことは、王子は職住近接を実現していける可能性があるということを示唆していると思っている。地域の中で雇用を生んでいくような事業が増えていけば、人口が全体的に減少していく中で、王子は可能性がある。東京全体で見たときも同じことが言えるのでは。まさに環七の外側、他県も含めた範囲で后背地が広がっている状況において、南に偏ってしまった東京の開発というものを東京都としても見直していく中で十分にそういうバランスする要素がある。

また、非常に複雑な方程式を解いていく際に危惧するのは、庁舎整備をベースにするのは構わないが、次の発展が阻害される整備を先行してしまうことは避けてもらいたい。そ

ういう意味では、開発の手法について、都市基盤から入っていくのか、いきなり物を建てるということから入っていくのかによって全然違う展開となり、市街地再開発の事業主体がどうなっていくのかなど含めて、あと 1 回の会議で絞り込むというのは普通に考えてあり得ない議論の進め方ではないか。もう少しこの複雑な方程式の中でこの部分のところが優先順位に考えればこの手法になる、この部分であればこの手法になるということが明らかにされて、それがまちづくりの方にもお話をされて、かみ砕いた形で情報が共有されて、まちづくりとしてこういうものが欲しいみたいな話が出てくるような、そういう議論の進め方になっていただきたい。また、地権者にとって開発メリットがいろいろな側面でマキシマムになるような開発やまちづくりを目指してもらいたい。

(会長)

大きく 3 点だったかと思う。一つ、先ほどの駅勢圏の話から発展させて、職住近接というキーワードをいただいた。東京の南の方の開発が非常にクローズアップされているが、そういう地区というのは遠距離から通勤してくる国際的な拠点をつくり出すようなイメージと一方、王子はむしろ近接しているところから、新しい生活拠点の意味を進化させるということにつながると思っているが、それは東京都にとっても新しいモデルをつくることにつながるのではないか。ポテンシャルを活かし、近接地域の雇用を生み出していく職住近接の新しいモデル事業、それが新しいタイプの生活拠点になる。そういった意味でこの地域をそういうモデルとして発展させていく。そのためには駅勢圏の実態を把握しておく必要がある。さらにそれを今度は、このグランドデザインの中でもぜひそういったアイデアを構築した生活拠点の意味合いを深めていきたいが、それを北区のマスタープランにも反映させる。あるいは、基盤整備の計画にも反映させていくようなことを意識したグランドデザインにしていくべきではないか。

また、基盤整備も含めて事業を起こしていくときには事業手法、あるいは、いろいろな制度を駆使していくのかということが課題になってくるが、それをある程度このグランドデザインの中で、あるいは、部会の中でも議論していただけないかという話であった。また、これは東京都の方からもいろいろなお知恵をぜひいただきたい。この検討会は今年度あと 2 回開催するという予定であるが、この後、継続的にどうしていくのかということも含めて、このグランドデザインのまとめ方を当初の予定、スケジュールも維持しながら、今後の進展の仕方を強く意識してまとめていただきたいという強いご意見であった。

(事務局)

まずは都市基盤をきちんとした上でまちをつくっていくというのがまちづくりと認識している。その認識の上で、今後も検討を進めていきたい。

(委員)

あと事業手法も、市街地再開発事業や他にもいろいろあると思うが、一つ一つ吟味していただきながら、どんどん絞り込んでいくという作業をしていただきたい。

(事務局)

まず今年度に大きな構想方針に当たるランドデザインを策定して、次のステップでは、細かな事業手法等を定める整備計画を策定していく予定で考えている。今のご意見については、ランドデザインの中で整理していく部分と、整備計画で整理していく部分があると考えている。両者の仕分けについても、今後検討会を進めていく中で事務局の方からも考え方を示しながら、ご検討いただければと思う。

(委員)

今委員から意見があったように、まちづくりの中では都市基盤の整備が最大の課題であるが、周辺建物の機能更新と連携しないと効果が高まっていかない。建物の機能更新も一気に進むわけではないため、段階的なまちづくりがうまくいくような戦略を練っていくことが重要である。例えば、既存の種地や民間開発で生じる空地进行を区画整理事業で換地し、さらに再開発を展開するなど、まちづくりのパターンは無数に考えられる。ランドデザインの策定にあたっては、こうしたエリア全体のまちづくりをイメージしたうえで、その入り口の部分の考え方を突っ込んで議論しておくべきではないか。

(会長)

今回、北区役所の移転が先行していて、後からランドデザインが追いかけて議論している印象があるが、どこかで追い越さなければいけない。全体の計画がどこかで個別の個々の建て替え、あるいは、移転の計画を追い越していったら、それを全体が包含するような計画をみんなで共有した上で、あらためて北区役所の移転を位置付けていくようなロジックが非常に重要といったご指摘であった。ぜひそういったスケジュール感覚で取り組んでいただきたい。

(委員)

将来像の議論については、今、庁舎の移転の話が中心となっているが、前回の検討会でも100年先を見据えて王子のまちづくりを議論すべきだという意見があったように、まずは長期的な視点での王子をどうしたいのか、どうすべきかというところを一つ押さえていただきたい。その上で、庁舎移転をきっかけに何がその時点でできるのか、それから、そのまちづくりの流れをその後どういうふうに波及していくのか、その辺りの議論をさらに具体的に詰めていただきたい。

それから、検討の対象の範囲について、庁舎の跡地や王子本町、石神井川のさらにさかのぼったあたりまで入れていただいて、東の方は隅田川のさらに下っていくあたりも含めて、この全体をどうしていくのかという方向性を議論して、最終アウトプットで示していただきたいと思っている。その中で駅前の拠点をどうしていくべきかというのは、詳しく議論していただくことをお願いしたい。

またコンセプトに関連しては、今までの資料の中では王子の特性がはっきりしないと感じる。一つは、飛鳥山を中心とした歴史文化というもの非常に特徴的であり、緑や川といった資源をどう生かしていくのかというのは大変重要な視点である。王子の歴史文化、今に残っているものをどういう形でまちづくりに活かしていくかというところをさらに掘

り下げてください。

また、王子ならではの産業や文化、芸術とは一体何なのかというところを今一度はっきりさせる必要がある。例えば池袋などはかなり特徴的で、芸術的な文化の取り組みが先行しており、それを踏まえてアートカルチャー都市を目指すということを言っている。そういった意味で王子というのは一体何を打ち出していくべきか。例えば、にぎわい検討部会では「豊島区の文化の拠点とか板橋区とのスポーツ関連の展開など隣接する地域と連携していく発想もある」というような意見が出ているようだが、他の地区と連携する場合、王子はどういう役割を担って、どこを活かしていくのか。その辺りももう少しはっきりさせていく必要がある。

また、王子が北の拠点を目指すといったときに北の玄関口の1つとして位置付けのある赤羽との関係をどういうふうに整理するのか。赤羽との連携を考える場合、北本通りなど、赤羽とのつながりを強化するような道路をさらに強くしていくとか、あるいは、池袋とタイアップする場合は、都電などを含めてインフラの利便性を高めていくなど広域的な視点も必要である。

回遊性を高めていくにはどのようなネットワークをどのように強化をしていくべきか。歩行者、自転車はもとより、舟運の活用も含めて、どういう形でインフラを強化していく必要があるのかといったことも考えるべきである。

王子そのものの特徴は一体何なのかということをはっきりさせ、他の拠点との違いを明確にし、王子ならではのものを高めていくべきである。単なる生活拠点ではなくて自立性の高い拠点をつくっていくということであれば、その辺りをもう少し強く打ち出すべきではないか。現状の中で王子にどういう特色があって、どこを伸ばしていけばこれからよくなるのか王子の強みを具体的に整理していただきたい。

(会長)

長期的な視点で王子をどういうまちにしたいのかということを出し、それを周辺にどう波及させたいのか、特に重要なのが駅の特徴、強みを具体的に整理しておく必要があるだろうということ。さらにもう少し具体的に掘り下げて、歴史とか文化とは一体何なのか。産業、文化という言葉を使っているが、具体的に王子のその辺の強みというのは一体どういうものなのか。それをほかの拠点との差別化を図っていく上で使っていきたい。そうしないと、具体的な土地利用や、空間利用につながっていかないのでは。また、赤羽駅との関係、連携の仕方について。北区内で二つの拠点ということなので、北区内で整理していただきたい。

(事務局)

王子は洋紙発祥の地ということで、その影響で印刷業。それから、飛鳥山には三つの博物館（紙の博物館等）があるなどの特徴がある。

(会長)

P37 までについて意見いただいたが、次に P41、今後の王子のまちづくりコンセプトお

よび基本方針案の部分までについて、ご意見等あればお願いしたい。

(委員)

私は今赴任して間もなく、王子のまちをいろいろ見ている中で、先ほど来お話があるとおり、交通結節点であるということ、新庁舎も含めた拠点がこれからできていくこと、さらに飛鳥山や石神井川という歴史的な場所があり、1,700ほど駅がある中でも、大変ポテンシャルの高い駅であると認識している。歩いてこれだけのところに行けるところは珍しい。顔、背骨、心臓があるまちが良いまちであると思っているが、王子はそういったまちになる可能性を大いに秘めている。東京南部の品川や豊洲など大きなところは、新たにまちをつくっていく中で規模が5倍、10倍、20倍になっていくわけであるが、王子に関しては、誰もそういうふうに考えていないと思っている。1から2割アップしていくようなイメージでやっていくと思っている。先ほど職住近接の話があったが、この後背地に住まわれている方を、どうやってまちに呼び込むか。高齢者や高層マンションに住む若者をできるだけ、週に1回でも2回でも多くまちに出てきてもらう。あるいは、石神井川や飛鳥山など、ここにしかないものを目指して地域の外から人が来る。そういったまちの姿を我々は求めているのではないか。

そういった意味では、居住者や来街者など、王子には多様な人がいる中でどうにぎわいを求めていくか。これが一つのポイントになってくる。海外なども含めて、自然があり賑わっているところで、例えば吉祥寺や代官山などといった、具体的に目指しているまちのイメージがあるのか。事務局にお聞きしたい。

(事務局)

今の時点で特段どこかを目指してということは考えていない。王子の特徴や課題を丁寧に整理した上で、どういった方策を講じてまちづくりを行っていくかという流れの中でランドデザインをつくり上げていきたいと考えている。P41の基本方針においても、どこかのまちを目指してということではなく、あくまでも王子の特徴をとらえた上で、まちの方向性を示している。

(会長)

にぎわいということが土台のテーマとして議論いただいているが、どういった人を引き付けていきたいのか、多様なという言葉をもう少し具体的な表現で委員の皆さんと共有していくことができれば、戦略として協力し合っていけるのではというご指摘とP41に関して言うと、この地区の強みや、後背地に具体的にどういったタイプの人たちがいるのかということをもう少し具体的に整理した上で、官民を挙げて取り組んでいく戦略としていく。P41には、そういうことを具体的に取り組んでいただきたい。

(委員)

コンセプトについては、ユニバーサルデザインやバリアフリーなど、障害を持っておられる方もアクセスしやすいまち、といったニュアンスもぜひ含めていただきたい。ただでさえ段差などの障害を解決しなくてはいけないといった課題が至るところであることもあ

り、少なくとも王子周辺では一気にアクセスが改善されるようなニュアンスがどこかで出せないものかと。先ほど P13 でまちへの訪問者の話があったが、東京都の身体障害者の利用施設やスポーツ施設に関して、王子には体育館があり、特に身障者のスポーツセンターは 15 万から 20 万人ともいわれる方が年間利用している。少し大げさに言えば、世界から来ていると考えられる。2020 年のオリンピック、パラリンピックでもそれらの施設は使用予定と聞いているので、北区だけでやることではないかもしれないが、アクセサブルなまちにするということもぜひテーマにしていきたい。

(事務局)

今のご指摘は上位計画の都市計画の中でも言及しており、今後の検討の中で考慮していきたい。

(委員)

P41 ページの 4 つの基本方針に若干違和感を感じる。内容はよいが順番について、災害に強いまちはもちろん必要だが、普通は課題よりも可能性や強みを上に書くのではないか。そのあたりに、まだコンセプトに対する迷いが見える。また駅勢圏の話に関連して、今回の対象エリアにも含まれているが、王子の駅勢圏には比較的古い団地も多くある。一部で既に建替えなど更新が始まっているが、すべてが一様にフラットな人々ではなく、そういった団地に住んでいる人、あるいは、団地が更新されたときに新たにいらっしゃる人などの視点からの整理も必要ではないか。

(事務局)

順番に対して特別な意図は無い。再検討したい。

(会長)

コンセプトが、「飛鳥山からつながる「東京の北の拠点」王子」と示されており、飛鳥山からつながるといふ、そこからを考え方の起点にしてずっと長い時間軸の中でこの地区を位置づけたり、あるいは、この地区の強みを整備する中で弱みを克服し、その上で北の拠点になっていくのではないか。そういったシナリオの中でこの方針を整理していきたい。また、歴史が強調されている感じを強く受けるので、今日的な課題とコンセプトがどのようにつながっていくかも考えなくてはならない。

(委員)

「飛鳥山からつながる「東京の北の拠点」王子」というコンセプトはまちづくりにどう反映されるのか、今後議論されていくということによいのか。

水と緑のネットワークがこの拠点の中にあるというのが非常に特徴的なところなので、それはぜひとも考慮していただきたい。P10 の左下の王子地域の将来像のところ、石神井川や飛鳥山公園を中心とした水と緑に囲まれた憩いの拠点を形成とあるが、憩いというのが一つのキーワードかと感じている。また、「個性ある拠点」とはどういう拠点なのか中身を具体的に検討していく必要がある。従前のコンセプト案は、「にぎわいと交流の拠点」となっており、直接的な意味合いが含まれていたが、今の案では「北の拠点」という単な

る位置の話になっている。拠点の意味が説明できるものを入れるなど、今後の検討の中でお願いしたい。

(副会長)

北の拠点に関しては、赤羽も位置づけることができ、王子だけではないかもしれない。東京の中でも王子を北の拠点にという意気込みは大切であるが、本当に北の拠点を目指しているのか。もっと住みやすい王子にふさわしい方向性があるのではという気もしている。飛鳥山からつながるということと、北の拠点とはつながらないような気もする。例えば井の頭公園のある吉祥寺は、西の拠点とは言っていないはずだが多くの人が集まっている。北の拠点というと産業の拠点なのか、交通結節の拠点なのか、住宅の拠点なのかになってくると思うが、拠点という言葉自体が目標かどうかとも再考が必要ではないか。

(事務局)

コンセプトについては、検討会の中で委員の方々から様々な意見を伺いながら、練っていく考えであり、現在のものがベストとは思っていない。会の後でも結構なので、ご意見いただければと思っている。

(会長)

生活拠点という意味もあれば、広域的な拠点、商業や業務の拠点という意味もあると思うので、拠点という言葉の意味を今一度因数分解していただき、再検討していただきたい。

(委員)

私たち住民にとっては、高速道路や都電、バスがあるというような交通の面での拠点といった意味で捉えている。それから、若い人たちも含めてまちの人たちとよく話をする中で、新庁舎の建設ありきで話が進んでいくのは違うのではといった声をよく聞く。もう少しいろいろな面で王子の駅前を景観的にもきれいにしていくであったり、明治通りやJRの線路、北本通り等で交通が分断されている、まちの発展の阻害要素を解消していくことなどを銘打ってもらいたい。大地震が起きたら、王子の人たちは逃げ場がないんだよなという話も出ており、ランドデザインの中の防災、道路整備などにも大きく期待をしている。庁舎整備は今の場所でも不便ではなく、急いでやることはないという認識である。

できればコンセプトについても、課題がたくさんあればあるほど夢も大きく膨らんでいくと思っており、地域の要望なども聞き入れながら十分に議論を重ねて練っていただきたい。また、折角この機会にランドデザインをつくるのであれば、災害に強い、また、人に優しい大学病院や、大学なども誘致してもらいたい。そういった意味で、まちの目指す方向性としては、少し落ち着いたまちなどではないだろうか。交通の便が良いことを活かすと、池袋や新宿でもすぐに行ける。王子にはデパートなどなくても、それほど不便ではないかもしれない。災害に強く、高齢者や子供など人に優しい、また、交通結節点である特徴をいかしたまちをつくっていただきたい。

(会長)

拠点という言葉が議論されているが、地元の方から見ると交通の要衝であり、その可能

性を追求していただきたいといったご意見。また、大学や大学病院の誘致などご意見があったが、我々大学関係者からすると非常にうれしい話である。ただ、大学というのはもともと固定資産税も払っていないような組織であり、地元にとれぐらいメリットがあるのか我々も疑問に思いながらお話を聞いている部分がある。夢のある話もぜひ広げていただきながら、地元の方にヒアリングをしていただいて、要望や情報を吸い上げていただくというのは非常に重要なので、必要であればぜひお願いしたい。

(事務局)

地元からの意見については、これまでもいろいろと経過など説明に伺わせていただく中で、その都度、ご意見等をいただいている。引き続きグランドデザインの策定においても、同様に意見等を伺わせていただきたいと考えている。

(委員)

王子駅は都バスと都電の結節点であり、特に都バスは多くの皆さまに利用されている。特色としては、王子駅を始発着とするバスが主に北口から多く出ている。また、明治通り沿いのバス停には、池袋方面から来て王子駅を通過するバスもあり、駅から離れて不便という声も聞かれる一方、運行の効率性を考えると今の配置がよいという実態がある。明治通り沿いのバス停は狭小であり、駅前も含めて、これ以上バスを増やしたくてもそうはできない状況にある。各論めいたお願いではあるが、今後、駅前広場の区域や機能分担を議論していく中で、バスの運行の効率性と、利用者の乗り継ぎ利便性、それらを両立させた検討をお願いしたいと考えている。

(会長)

バス事業者として東京都の協力も不可欠であるため、今後ご協力をお願いしたい。都電についても、今より利便性を上げる、もしくは、利用者を増やすためにはどのようにしたらいいかを、もう少し望みを持って考えていきたい。最後に、副会長の先生から意見をいただきたい。

(副会長)

P43 をみると、第2回の部会、特に都市基盤・開発部会では、デッキ案・地下案など含めた複数案を提示し、メリット・デメリットの整理をしていくとあるが、かなり大胆な案が出てくることも予見される。スケジュールの懸念もあるが、第2回の検討部会は相当重要になってくると感じている。そこで議論が拡散してしまわないように、道路管理者や地権者などと協議の上、ある程度あり得る案にした上で会を開いていただきたい。

(会長)

この検討会は大所帯であることもあり、実質的な審議を検討部会の方に委ねている。第2回の検討部会はかなり比重が重くなると思うので、ぜひ準備も含めて作業を進捗させていきたい。

最後のまとめとして、一番重要なのはこのグランドデザインに臨む姿勢が依然として問われていて、そこをきちんと皆さんは確認しながら進めていきたいということかと思って

いる。実態としては、北区庁舎の移転を契機としてグランドデザインの検討会が始まったということではあるが、庁舎移転も含めて個別の事業をそれぞれ独立させて稼働させるのではなくて、むしろ、その上位となるような全体的、長期的な将来ビジョンに基づく全体計画、都市基盤の計画、それから、民間事業者の再開発などを誘導していくための戦略あるいは手法、そういったものの道筋をつけていただきたいというのが、一番の皆さんのご意見ではないだろうか。あと 2 回の検討会の中では、具体的な方策までは難しいと思うので、少なくとも来年度につながっていくような道筋をつけていただきたいということかと。それらを踏まえて、今後の進め方について再考いただく所は再考いただき、進めていただきたい。

また、コンセプトについてもさまざまな意見をいただいた。飛鳥山からつながるという、このつながるという意味を今一度整理していただき、場合によっては言葉を補足していただきたい。あるいは、改善していただく必要があるかもしれない。それから、拠点の意味も、構成する機能や、交通の要所、あるいは、生活の中心、生活の拠点、職住近接としての雇用の場としてのにぎわいなど、可能性が様々あるのではということで、さらに中身を詰めていただきたい。その前段として、今、この地区が持っているポテンシャルを含めて、強みを前面に打ち出すような形、あるいは、きちんと整理するような形で作業を進めていただきたい。基本方針についても、順番について意見があったが、この地域の強みと弱みを整理し、それに基づいてこの基本方針を整理していただくということ。このグランドデザインは、この地域の将来像であり、外部に対して発信していくときの戦略も考えた上で、順番も含めて慎重に検討していただきたい。

引き続き大変集中的な作業を必要とするが、この地域の可能性を引き出すのは地元の方々であり、事業者の方々なので、関係者の方々には引き続きよろしくお願ひしたい。

4. 閉会

- 事務局より、閉会の挨拶。
- 事務局より、次回の検討会は、第 2 回の都市基盤・開発検討部会、にぎわい・活性化検討部会を開催した後、十分な調整を行い、できれば 11 月頃開催したい旨連絡。

以上